

# 平野ヶ丘



多治見市立養正小学校  
校報『平野ヶ丘』

令和4年度 学校報 第10号  
令和4年12月26日(月)発行  
「みなさまのおかげで、本年は  
創立150周年を迎えます。」



## 『2023年が、希望に満ちた年でありますように。』

←先週は、校内に神出鬼没の”おじサンタ”が登場！

校長 熊崎 健一

このところ急に寒さが厳しくなってきました。“子供は風の子、元気な子”としたのですが、まだまだ薄着で頑張って登校している子を見ると、こちらの方が震えてしまいそうです。道端に氷を見つければ溶けないように持ち運んだり、チラつく雪が服につけばニコニコと眺めたりして楽しんでいます。日本の四季を肌で感じているといった姿です（路面に撒かれた白い粒を雪やあられと勘違いして触ろうとする子もいるので「それは、雪や氷を溶かす融雪剤だよ!」と教えています）。

さて、今年も残すところあとわずかとなりました。4月からをふり返ってみると最初に思い浮かぶのはやはり“コロナ”です。23日現在で、児童の感染者数はのべ130名（約35%）に達しています。それでも、みなさんのご協力もあり、これまで学級閉鎖等の措置は行わずに済んでいます。今は第8波の真っ只中。近頃は「感染力は強く、重症化率は低い。」というような報道もされていますが、油断は禁物！感染しないに越したことはありません。年末年始は、子供も大人も行動パターンが変わります。お家のみなさんも含め、十分お気を付けください。

コロナ同様かそれ以上に世界中が心痛めているのは、ウクライナとロシアの戦争ではないでしょうか？「正しい戦争など存在しない。」という言葉には、多くの方が共感されることでしょうか。その是非をここで述べるつもりもありませんが、今この瞬間も寒さや飢えに苦しむ子供たち、命の危険に眠れない夜を重ねる子供たち、離れて過ごす家族の安否に胸が張り裂ける思いの子供たちがいることは事実です。クリスマスを楽しむことも、新年をお祝いすることも、学校へ行くことさえままならない子供たちがいることを、目の前の子供たちに分かる言葉で伝え、一緒に考えるような時間が必要なのではないでしょうか？

どうか皆様、心身ともに健やかで希望に満ちた新年をお迎えください。



## 1/500の奇跡？ ~ うれしいお便りが届きました！ ~

12月14日。「LET'S GO 200」と書かれた札のついた緑色の風船（当然、割れています）とともに、お便りが届きました。送り主は、静岡県富士宮市にお住まいの内田さんという方でした。150周年行事である青空に放ったバルーンが、なんと直線距離で約140km離れた静岡県は富士宮の地まで辿り着いたのです。お手紙を紹介します。

「こんにちは。開校150周年記念、おめでとうございます。私は、静岡県富士宮市という富士山のふもとに住んでおります。私どもの畑に同封のタグがあるのを見つけ、ペンをとらせていただきました。多治見市から富士宮市までこの風船が届いた事、とても感動しております。まだまだコロナは終息しませんが、養正小学校のみなさんも負けずにがんばってください。すてきな贈り物をありがとうございました。」

あの風船がこんなに遠くまで飛んで行ったことも驚きですが、その内の一つが心ある方のもとに届いたことを思うと不思議なご縁を感じます。風船は、約500個飛ばしましたので、“1/500の奇跡”といっても過言ではないでしょう。早速、お昼の放送で子供たちにお知らせをしました。また、同封されていた右の写真も添えて職員室前に掲示しました。子供たちは、そこで足を止め「富士山、すごー！（写真）」「富士宮、遠っ！（地図）」「書いたの誰？（タグ）」と口々に声を上げていました。主な記念行事は終わりましたが、こんな出来事も楽しい思い出の一つとして子供たちの心に刻まれていくことでしょうか。内田さん、本当にありがとうございました。

